

れをお読みになつてゐる今、あなたは混乱の渦中にいるかもしれません。

マ 人間はあなたを失望させ、神も遠くにいらつしやつてあなたには役に立たない存在に考えられるかもしません。あなたの必要とするものは何一つかなえてもらえず、愛されているとは思えない状態で育つたのかもわかりません。あなたはあなた自身を受け入れようとしないばかりか**あなた自身**を愛してこなかつたかもしれないのです。

人が人生に対処するにあたつて不適応だと感じることは軽い抑うつから自殺を考えるまでのありとあらゆるかたちをとるでしょう。このことのために、あなたと愛する人たちとの関係が限界に達しているかもしれませんし——あるいはもはや修復の余地もないほどに破壊しているかもしれません。あなたが今もしも軽い絶望の点にあるか、全く捨てばちになつてゐる状態だとしたら、このメッセージはあなたの状況にぴつたりです。

神さまは、み子、主イエス・キリストをおつかわしくださるほどにあなたを愛してくださつたのです。神は、あなたの罪のために十字架上で死んだキリストを死からよみがえらせ、勝利とゆたかな人生に必要なすべてのものをキリストを通してあなたに

あたえようとしておられるのです。今日あなたはキリストの死があなたの罪の無償の許しに必要なすべての神の条件をみたしたこと信じるか、信じないかのどちらかをとらなければならぬのです。まだ信じていらっしゃらないなら、あなたが彼の生命、すなわち主イエス・キリストの生命を受け入れる時、あなたの生命を変革することが出来るでしょう。この簡単なメッセージと挿絵はその手助けとなることでしょう。

あるいは、キリストを信じて救われはしたが、クリスチヤン生活の勝利ある道を手さぐりして、今もがいでいる敗北の信者であるかもしれません。

前述のどちらの場合にあなたがいらっしゃるとしても、聖書を開いてこれから述べる真理を神が理解させてくださるように祈りつつ学んでください。

あなたの素描

車輪図は人間が、靈、精神、身体（テサロニケ前書5・23）の3つの領域から成り立っていることをあらわします。身体は感覚を通じて外界とのつながりを持ちます。精神、あるいは人格は心、意志、そして感情の機能から成り立っています。精神は人と人とのかかわり合いを可能にします。靈は、私たちが新生し聖靈の内住をいただく時に、私たちの能力、限界、環境などを超越することを可能にします。

靈は、アダムすなわちサタンの家族（**線図を参照**）か、あるいはキリストすなわち神の家族かのどちらかに関連があります。私たちはこの世にアダムの子孫として且つ彼の性質を受けつぐ者として生まれました。ということは、私たちの靈は神に対して死に、サタンに対し生きているということです。私たちはよくない家族にいるのです！私たちの生命がはじめの父であるアダムから来たのであり、途切れることが多い鎖で元をたどることが出来るわけですから、アダムが罪を犯した時に実は私たちも彼の中にいたのです。このようにして私たちは肉体をもって生まれてくる以前に罪人となつたのです。そういうわけで私たちはごく自然の結果として罪を犯すのです（ロマ書3・23）。アダムの中に残っている生命は一人のこらずやがて地獄で終るのですが、それは図に示すとおりです（ローマ書6・23）。人間の基準でたとえ私たちが良い生活を送つたとしても、私たちが靈的な新生をしなければ、そして神の家族に生まれるまでは、神から引き離されているのです。

あなたの必要

「救い」(1)という言葉が**車輪図**で意味するところは、私たちが靈的な誕生を持つべきことをあらわします。この方法によつてのみ、私たちはアダムの生命を離れてキリスト

トの生命の中に生まれることが出来ます。それは永遠の生命であつて線図に描写されています（ヨハネ伝3・3）。靈的に生まれるために、私たちがよこしまな生命の中にあり罪人として生まれ、やむをえざる結果として罪を犯してきた者であることを認めて告白しなければなりません。それから私たちはキリストを私たちの人生にお迎えしなければなりません。なぜなら、キリストは私たちの罪のために死んでくださったからです。

靈的誕生の時、キリストの靈的生命を信仰によつて自分の内なる靈におむかえする人は、キリストと共に一つ靈となるのです（コリント前書6・17）。もし人が誘惑にうち勝ち、自分の人生に神の平安を経験しようとするなら、みずからの救いの確信を持たなければなりません。**確信**(2)は神の誤りのないみ言葉の確実な証拠の上に根ざさなければなりません。さもないと、つかのまの夢として消えてしまうでしょう。

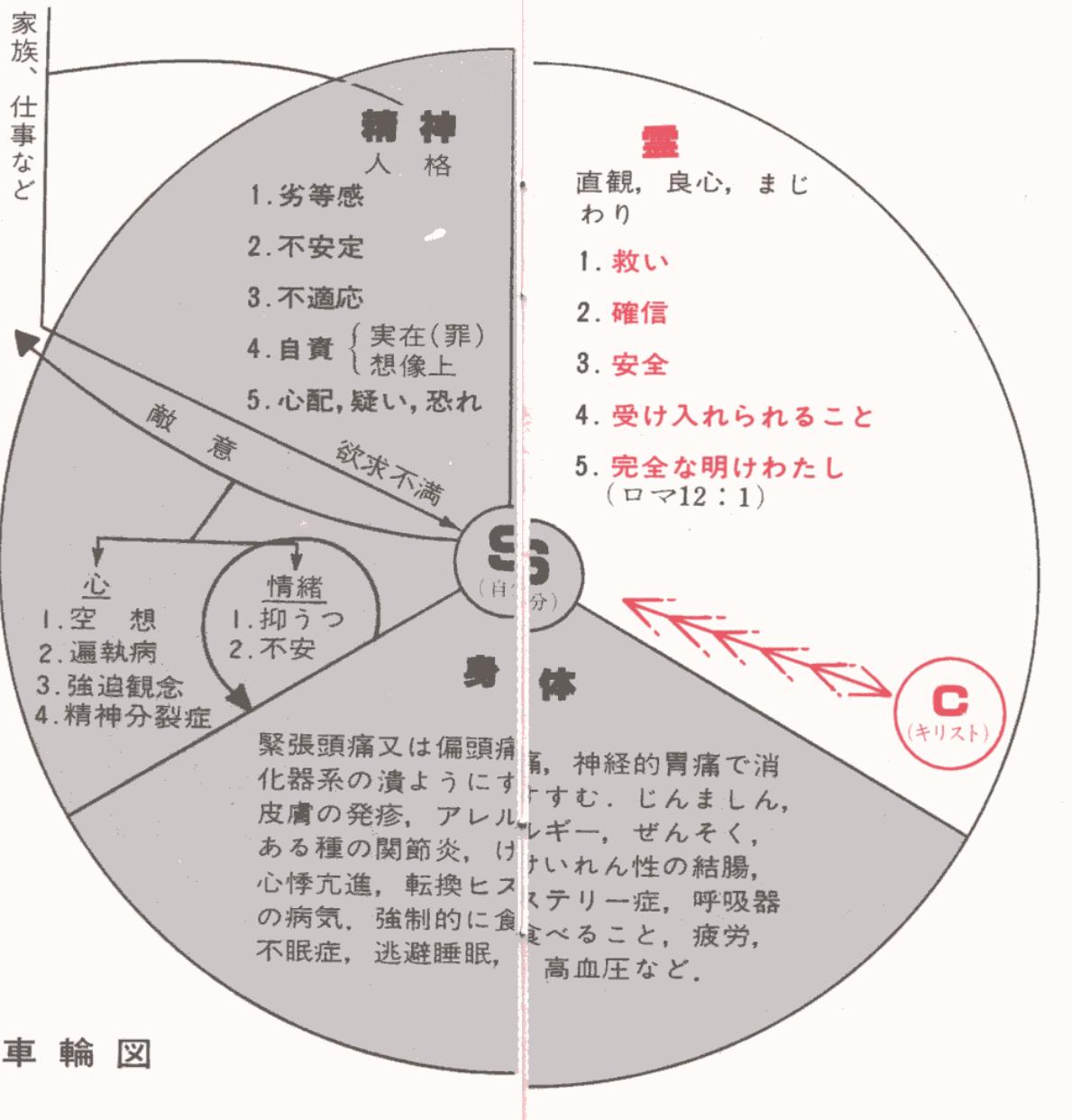
主イエス・キリストを個人的に信じた（頭の中で）ことを知つていても救われているのだという感じを持たないために、いまだに純粹な確信を欠く人が多くいます。幼少時代の拒否に根ざす情緒的衝突のために人の感情（または情緒）は本当の事実に一致することが稀です。たとえそれらの事実が聖書の中に記されていようが、あるいは自

然界に存在するものであつてもです。

キリストが私たちの人生の中心となられ、傷つけられた情緒がいやされるまでは、私たちの物事に対する感じと眞実の姿とのあいだには大きなへだたりがあるようです。

信仰の長い人であれ、あるいは新しい信者であれ、主イエス・キリストを通して神との安全且つ永遠の靈的関係の中に入れられ（ヨハネ伝5・24）、その**安全**によりたのみ、よろこぶことが出来ることを知るべきです（3）。

多くの信者がキリストを受け入れたことを知っているにもかかわらず、キリストにあって自分が受け入れられていることを理解し、その事実を経験している人はごくわずかです。キリストの生命（エペソ書1・6）を通して全く神に受け入れられていくにも拘らず、大半の人々は人間の社会で努力によつて受け入れられるように仕向けてきたために、**神に受け入れられる**（4）のに努力が必要だと感じるのです。すべての信者は受け入れられていますが、多くの人は信仰によつて自分が受け入れられることや義とされること（コリント後書5・21）を決して受け入れようとしないのです。主イエス・キリストに対しての**全き献身**（5）とか全き明けわたしをする人も逆に非常



に少いのです。これは、私たちの避けられない決心として神にささげるもので、私たちの中に、私たちを、私たちに対し、あるいは私たちを通して何をなさろうと結構ですと申し上げることなのです。私たちはすべての権利を放棄するのです。

しばしば周囲の事情は、私たちのこうした決心のあとに悪い方向から更に悪化して大きな混乱をひきおこすことがあります、それは、私たちの生涯を全くご自由におとり扱いくださいという私たちの願いを神がおみとめになるからです。もし神が支配権をお取りになるのなら、私たちは自分の手を引かなければなりませんし、その過程は私たちに喜びをあたえることは稀です！ 私たちが自分の思い通りに人生を送ろうとする生活に終りをもたらすために神がお用いになる事情や人間は、それ自体靈的でないことが度々です。それらは時には不当な苦しみをあたえますが、私たちの人生で神の目的を達成するのはこうした苦しみなのです（ペテロ前書2・20—21、ピリピ書1・23—30）。その苦しみやこらしめの時に（ピリピ書3・10、ヘブル書12・11）、よろこびの理由とみられることは殆んどありませんが、それこそ私たちが切望する聖さを産み出す坩堝（るつぼ）なのです。

信者に対する神の目的は、彼をキリストの像（かたち）に合わせることです（ロマ

書8・29）。このような適合は苦しみをともないます。ロマ書8章28節のあい働きて益となる「すべての事」は回想によるのでなければそれ自体では善いものと思われることが稀です。

あなたの内側にある争い

車輪の中心にある「S」は自己支配された人生又は「肉」をあらわします。殆んどの信者にとつてクリスチヤンの経験すべてが肉の支配下にあるのです。肉は異なる形式を求め、個人の力によりたのみ、必要が消極的であれ、積極的であれ、何か物なり人によつてみたされることを求めるのです。

「自分＝人生」（訳注＝自分中心の人生）や肉によつて支配される時、お金、品物、成功、功名、性的たのしみ、力、あるいは人を動かす数限りない物が彼の生活のすべての焦点となるのです。このように、「肉」とは、単に信者が自分の力でクリスチヤン生活を送ろうと試みることなのです。

それゆえ、「肉」はクリスチヤンにとつて偶像礼拝と同様、大変重大な問題なのです。なぜなら私たちがキリストの中心性を他の何かと、たとえ私たち自身であつても、置きかえる時、私たちの人生の王座に何を据えようとそれは偶像となるのです。

神は肉に対し断固たる処置をとらなくてはなりません。そしてたしかに神はそうな
さるのであります。それは通常、自己中心の生活が、もはや耐えられない状況にあることを
知り、自分にあいそをつかして、「キリスト＝人生」（訳注＝「キリスト中心の人生」）
と「自分＝人生」（訳注＝「自分中心の人生」）とを交代することに興味がわくまでなさ
れます。そして、自己に対処能力のないことをあばかれるのです。

自我（肉）が支配しているかぎり、車輪図に描かれた「精神」（人格）の部分におけ
る衝突は続きます。争いは、年令とふえつづける責任とに反比例して悪化の一途をた
どります。時には、心理的によく調整された「自分＝人生」が人生の大半をうまく処
理することが出来ますが、結果は、とても十分といえるものではありません。

罪意識（現実のものと想像上のものの両方）とともに心理的欠陥は自制された人生
に多様なフラストレイション（欲求不満）を生み出します。フラストレイションは何
かのかたちで処理されなければなりません。ある人は、身体なり言葉なり、攻撃とい
うかたちで他の人々にあたりちらしますし、別の人には仕返しの方をもつと恐れて敵意
を出来る限り内側に押さえこもうとします。

ある人は怒りと欲求不満を抑圧しますがその理由は、彼らが出くわす一つ一つの

問題と厄介な事がすべて自分のせいだと自分を責めるからです。どんな理由にせよ、敵意と欲求不満が抑圧される時、心か感情に、あるいはその両方に強い影響をあたえます。内側に閉じこめられた敵意とか怒りは、しばしば抑うつおよび情緒的な不安を引きおこします。人によつては、自分の心を使つていろいろな歪曲をしたり、現実を否定したりします。そうすることによつて、この人々は本当の問題である「自分＝人生」を処理することから逃げられるのです。しかし、心理的なたたかいが治療法もなくだらだらと続く時、一般に身体の病気を引きおこすことは図に示されるとおりです。たとえ身体の病気が本当であつたとしても、それは實際にはもつと根の深い問題、すなわち、「自分＝人生」の徴候なのです。「精神」の領域に描かれた心理的問題も全く同じです。

あなたの解放

神がいかに「自分＝人生」を王座から引きずりおろして根本的問題を処理なさるかということがわかる時にこれら心理的、身体的徴候は消え始めます。

線図は「死から生命へ」の原理——内面的たたかいを片づける神の方法です。

水平線は永遠の生命であるキリストの生命をあらわします。永遠とは、始めもなけ

れば終りもないということです。それは時間を越えます。キリストは神なので、これまでずっと生きてこられたし、これからも生き続けられます。キリストの生命は昨日も今日も永遠までも変ることがありません（ヘブル書13・8）。水平線の左端にあらわされているように、キリストは肉体となられ（ヨハネ伝1・14）、三三年間、人として生活なさいました。その後、十字架刑に処せられ、葬られ、そして三日目に死からよみがえられたのです（コリント前書15・3—4）。キリストは今も生きておられます（ヘブル書7・25）。永遠の生命とは、単に現在と未来を信者に約束するだけではなく、永遠の過去をも含むことに注目してください。

私たちが新しく生まれるまで（ヨハネ伝3・3）キリストの生命——永遠の——には入っていないばかりか、アダムの靈的に死んだ生命の中にいるのです。斜線上の短い横線で代表される私たちの先祖の一人がこの世に生存しなかつたとしたら、私たちもこの世に生を受けなかつたはずだということは、容易にわかることです。身体のことと言うなら、私たちの生命はアダムに始まります。それゆえ、アダムに起こった事柄はすべて私たちにも起こつたことなのです。彼が罪を犯した時に私たちも罪を犯しました。彼が死んだ時（靈的に）、私たちも死にました——それはあたかも、私たち

の曾祖父が子供を生む前に亡くなつたとすれば私たちも死んでいたと同様です。このように、靈的な死とは神からの分離なので、私たちは皆死んで（靈的に）生まれてきましたわけです。私たちはたしかに私たちの罪のゆるしが必要ですが、生命も必要なのです。主イエス・キリストは私たちにその両方をおあたえくださるためにこられたのです——私たちの罪のために死ぬことにより、そしてご自身の復活の生命（ヨハネ伝10・10）を私たちに提供するために。

もしもあなたがクリスチヤンであるなら、すでにこれくらいのことはご存知のはずです。まだご存知ないことはといえば次のことでしよう。

信者にとって、身体の死とは、この世の生命と罪の実在から、神がご臨在なさる天のみ国での生命に入る閑門です。同様に、他の型の死はアダムの罪にみちた生命からキリストの永遠の生命への閑門です。人が「新生」する時、同じ時に死ぬのです。彼はキリストの生命の中に誕生しますが、同時にアダムにあつての生命に死ぬのです。

私たちがキリストを信じて新生する時にキリストは私たちの生命に入つてくださいますが、それがすべてなのではありません。私たちはキリストの生命すなわち永遠の生命に「あづかる者」とされたのです。ロマ書6・3には、私たちはただイエス・キ

リスト（彼の生命）に合うバプテスマをさしつけられただけでなく、彼の死に合うバプテスマをもさしつけられると記されています。私たちは二つの相反するアダムの生命とキリストの生命とを同時に持つことは出来ません。

あなたの同一化

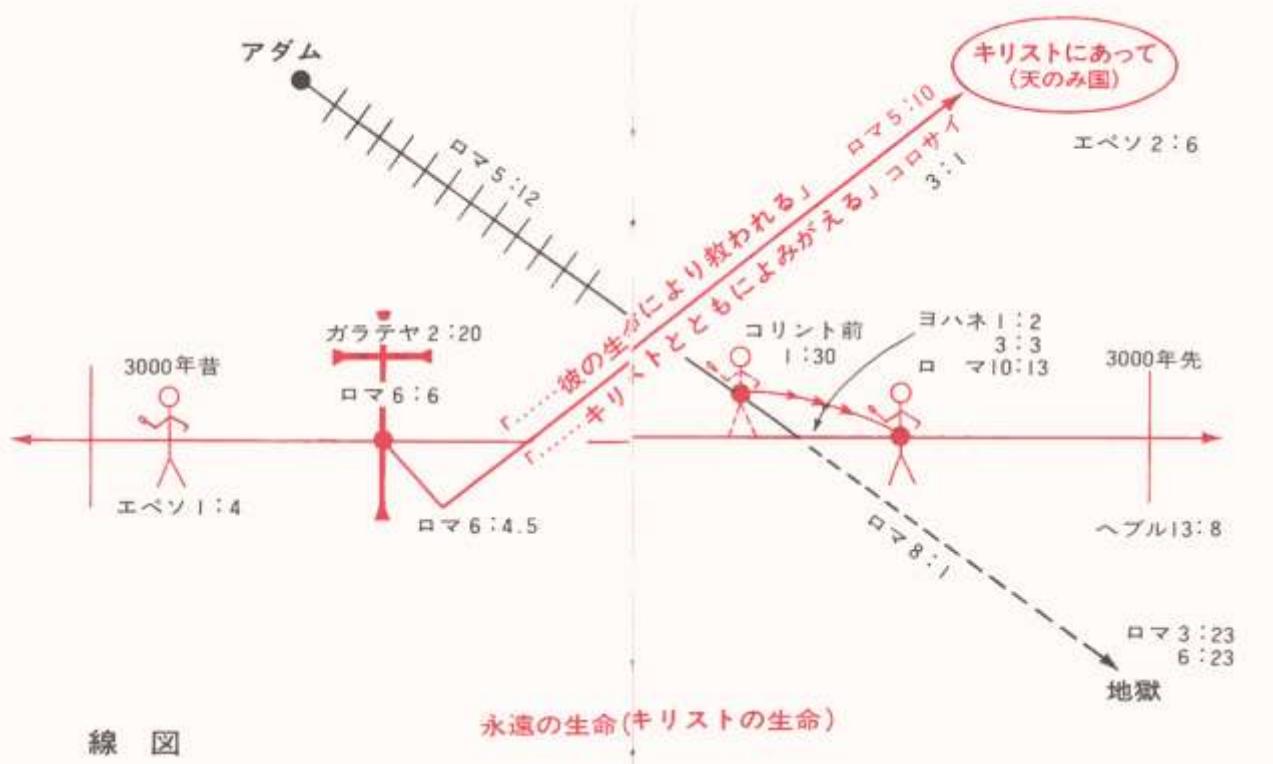
私たちが信仰によつてキリストを受け入れる時、キリストの十字架上の死は私たちの罪の弁償と同じようにみなされるのです。然しそれ以上の意味があります。それは私たちが新しい生命に入ること、すなわち、永遠の未来と同様に永遠の過去にまでひろがる生命に入ることをいうのです。別の言葉で言うなら、私たちはアダムの歴史とキリストにある永遠の歴史——悪いものと良いもの——とを交換するのです。私たちは新しい「家系」を相続します。キリストの生命にあずかるものとなることにより、私たちは彼の死、葬り、復活、昇天、天の処に座すことに合わせられるのです（ロマ書6・3—6、ガラテヤ書2・20、エペソ書2・6）。彼は唯一つの生命をお持ちになります。そしてこれこそ私たちが新生する時に受けとる生命なのです（ヨハネ第15・11—12）。

私たちが、キリストと共に十字架で処刑されたことを個人的な信仰経験によつて知

らなければ、そして知るまでは、私たちは古い「自分＝人生」（訳注＝自分中心の人生）で習った方法を使ってキリストのために生きようと努め続けることでしょう。アダムの子孫として生じる衝突は私たちを悩ませ、負けさせ続けるでしょう。然し信仰により、キリストの死と復活に合わせられる正しい立場をとる時に、正にその時にこそ私たちは本当に「新しい生命に歩む」（ロマ書6・4）ことが出来るのであり、「古いものは過ぎ去り、みよ、すべてが新しくなったのである」（コリント後書5・17）。十字架の経験（キリストと共に十字架につけられ、復活することの私たちの経験的理解）は、聖靈に制御コントロールされた人生への関門です（ガラテヤ書5・16）。死から生命へ、敗北から勝利へ——信者が経験する苦痛に対しての目的と答です。十字架自身と同様に私たちの十字架への道は苦難の道ですが、それは苦痛の終着点に導く唯一の道です。

あなたは信仰によつて、あなたの内面の闘争と絶えざる敗北に終止符をうとうとなさるほどに疲れきっていますか。あなたはキリストのあらゆる状態にあって生きることが出来るよう、**あなた自身のすべてに、よろこんで死ぬ**ことが出来ますか。

そうするためには、「自分＝生命」（訳注＝自分中心の人生）と「キリスト＝生命」



線図

(訳注＝キリスト中心の人生)を交換し、聖靈に満たされるか聖靈に制御されなければなりません。それをこばむことは肉に従つて生き続けることであり、絶えざる衝突、苦悩、そして敗北によつて聖靈を悲しませることになります。

救いの祈

もし、あなたが自分の思う方法で事を処理した結果が苦悩ばかりでうんざりしていらっしゃり、キリストご自身のみ心があなたの中になるよう心からおゆだねするなら、キリストはあなたを自由にしてくださいます。

もしあなたがこれまでにキリストを個人的な救い主として受け入れていらっしゃらないのであれば、あなたがまずなすべきことは、神さまにおねがいして靈的な新生により新しく造つていただくことです。あなたが正直に次のようにお祈り出来るなら、あなたは生まれかわることが出来るのです。

「天のお父さま、私は自分が罪人であることをみてきました。私は今もなおアダムの生命にあつて罪を犯してきました。私は、あなたが私の罪の身代りとして死ぬためにあなたの御ひとり子主イエス・キリストをおつかわしくださつたことを信じます。私は、キリストがよみがえられ、今も生きておられることも信じます。そして、たつた

今、私はキリストを救い主として私の心の中におむかえいたします。私があるがまま、私の持てるものすべて、そして私のこれからのことなどすべてをあなたさまに明けわたします。私は罪と自己中心の生活に背を向けて、キリストにある新しい生涯を送ります。私をお救いくださってありがとうございます。アーメン」

同一化の祈

あなたが「救いの祈」を祈られたなら、あなたは新しく生まれたのです。なぜなら、神さまはキリストを信じる者すべてに、神の子供となる特権をあたえるとおっしゃるからです（ヨハネ伝1・12）。

さて、たった今救いの祈をなさったにせよ、あるいは過去であるにせよ、「同一化の祈」をささげることは、キリストの勝利と平安の生命を経験するのに助けになるでしょう。この祈が効果的になる前に、あなたは「自分＝生命」に全く失望していなければなりません。自分の力でタリスチャン生活を送ろうとしてきたことを聖霊に責められて、あなたの人生からあなたの支配権を放棄する用意が出来ていなければなりません。もしこれがあなたの状態なら、こう祈ってください。

「お父さま、私の罪をゆるしてくださいり、私をアダムの生命から取り出してキリスト

の生命に移しかえてくださったことを感謝いたします。今私はキリストにありますので、私はキリストと共に十字架につけられ、彼と共に葬られ、彼と共によみがえらせられ、あなたの右にキリストと共にすわらせていただいていることを信じます。この瞬間から、私はあなたのみ子イエス・キリストが私の中に、そして私を通して生き給うことを選びます。そして私は自分が罪に対して死に、あなたに対して生きるとみなします。私はキリストと共に死んだことを忘れて、自分の人間的知恵と力にたよつて、キリストの生命をキリストのために生きようなどとしないように聖霊によりたのみ、教えていただきます。私の一部分たりとも罪のために使われることのないようにし、私の全生命を義の器としてあなたに明けわたすことを選びます。キリストとキリストの生命を私に本当のものとしてくださいありがとうございます。どうぞ私を通してあなたのみ名をあがめさせてください。イエスさまのみ名によつてお祈りします。アーメン。』

「幸福への手引き」（日本語訳進行中。近く出版予定）より要約。
ソロモン博士の他の著書には、「拒否の一部始終」、「キリストの心をもつて カウンセリングを」、「珠玉と通語」などがある。

版権所有・発行者

グレイス・フェロシップ・インターナショナル
米国コロラド州デンヴァー

訳者 丸山一郎

千葉県習志野市本大久保四の十七の十

頒布 新生運動

352 新座市石神一の九の三四

印刷 東洋印刷株式会社

GFI

3595 S. Teller, Suite 408
Denver, CO 80235
(303) 980-0003



十字架を通して自由への手引き

教育学博士 チャールズ・ソロモン著
訳・丸山一郎

www.gracefellowshipintl.com